二〇一六年八月三〇日（参加者一七名）

山上の碑に立ちて聞く秋の声　はく子
弔ひの礼をしたたむ秋灯下　はく子
池の波蒲の穂波と交錯す　はく子
ケーブルカー峡ゆくほどに風は秋　はく子
たもとほる屋上庭園風の秋　明日香
コンテスト待つ案山子みな個性あり　明日香
噴水の穂を縫ふ子らの奇声かな　明日香
子らあそぶ土竜叩きの噴水に　せいじ
噴水に空手チョップす幼なかな　せいじ
天空の園に高舞ふ秋の蝶　せいじ
さくら貝花のごと置くガラス棚　ぽんこ
林立す白きマストに秋の風　ぽんこ
緑陰を抜けて運河に出でにけり　ぽんこ
青松の影ひろひつつ避暑散歩　わかば
六甲に翳落としゆく雲の影　わかば
林立す帆柱に立つ雲の峰　わかば
風を待つ運河にヨットたゆたうて　小袖
佇つ吾の背な押す波止の風涼し　小袖
本物のヨットを飾るレストラン　宏虎
帆柱の白直立す波止涼し　宏虎
避暑ホテル貝殻一つお土産に　なおこ
綺羅星のごと海光る秋の晴　なおこ
秋の声聞く長堤の松籟に　菜々
大いなる魚拓を壁に舘涼し　菜々
セブ島の海を再現舘涼し　有香
打楽器のごと屋根を打つ夕立かな　有香
カラフルなヨットグッズや舘涼し　こすもす
マリーナの人魚の像に秋日濃し　たか子
身にしむや命透けたるクリオネに　ひかり
水揺れて展示のヨット動くかと　満天

定例句会みのる選

二〇一六年八月三〇日（参加者一七名）